

平成27年度指定管理運営業務評価票

施設名称：大阪府立少年自然の家	指定管理者：少年自然の家共同事業体	指定期間：平成23年4月1日～平成28年3月31日	所管課：教育委員会事務局市町村教育室地域教育振興課
-----------------	-------------------	---------------------------	---------------------------

評価項目	評価基準(内容)	指定管理者の自己評価	評価	施設所管課の評価	評価	評価委員会の指摘・提言	
			S～C		S～C		
I 提案の 履行状況に 関する項目	(1) 施設の設置目的及び管理運営方針	①施設の設置目的である、心身ともに健全な青少年育成を図るため、利用団体と充分なプログラム相談と利用打合せを行い、その目的の達成度の向上に努力を続けている。 ②社会教育施設としての役割を果たすため、主催・自主事業やプログラムメニューを充実させて、利用者の満足とサービスの向上に努めている。施設設備の管理は担当の明確化、チェックリストの徹底により常に良好な状態で利用者へ提供を行っている。	S	野外活動、生活体験を通じた青少年への教育効果を発揮できるよう、プログラムの充実を図り、施設内外で取り組みを進めている。	S		
	①指定管理者・団体としての社会貢献活動、環境活動、法令順守などの取り組みの状況	・構成団体2者ともに青少年の健全育成を目的とする社会貢献団体であり、団体全体としても種々の社会貢献活動を行っている。 ・環境活動について、毎年親子対象に行っている事業「アドプトフォレスト」では、竹の間伐や木登り体験などを実施しながら森づくり活動を推進している。 ・教育「コミュニティづくり推進事業」の一環として、府内の子どもたちにプログラムを体験してもらった活動、出前講座を8、9、11月に計3回実施した。年度内残り2回実施予定。 ・「節電協力のお願い」の掲示や節電定巡回を実施している。電気の使用料は、上半期合計で昨年対比98%と削減した。デマンド監視装置導入により、昨年同時期よりもデマンドが3kw/h減るなど、効果が出ている。 ・法令遵守について、消防および保守点検はチェックリストを作成し毎月一回の自主点検を実施し、不備が無いように努めている。また、施設運営に関わる旅館業法、食品衛生法などの各種法令を遵守し、快適な宿泊環境作りと食の安全確保に努力しており、年度を通じて違反や利用者に支障をきたすような事故は発生していない。	S	・今年度から始動した各小学校で行われている「放課後子ども教室」への出前事業は、実施にあたり、職員が知識や経験を活かしてメニューを開発した。受け入れ先からも好評であり、直接施設を利用したことのない子ども達にとっても、自然体験活動へ親しみきっかけとなっている。 ・法令遵守について、保守点検はチェックリストに基づき適正に行われている。また、フロン法の改正に伴う点検等、法令改正に伴う保守点検の変更にも対応している。	S		
	(2) 平等な利用を図るための具体的手法・効果	①事業等の実施において施設の設置目的に合致した平等利用を担保しているか。 ②障がい者等に対して配慮を要する事項について適切な対応がされているか。	①行事の内容、チラシや参加要項、受付方法なども平等利用が確保されるように配慮しながら実施している。府民に広く情報が届くように、広報媒体はインターネット配信や地域コミュニティ誌への掲載など幅広く展開している。 ②構成団体の自主研修では「人権研修」のプログラムを必須とし、職員全員が受講予定である。ユースホステル協会は「障害者差別解消法についてと視覚・聴覚障がい者とのコミュニケーション実習」、青少年財団は「改正障害者雇用促進法について」を予定している。 障がい者の利用に際しては、事前の下見や相談打合せ等を十分に行い支援体制を整えている。具体的には障がい者には活動しやすい階の部屋を優先的に利用してもらい、食事については摂取障がいへの対応をおこなっている。また、所内での移動の際、公用車で送迎を行い、障がい者浴室の優先利用を実施している。車いすは常時使用できるように整備している。	A	①チラシ、ホームページ等の既存の広報媒体に加え、バーベキュー、キャンプ、コスプレの愛好者が活動場所を探す際に利用するサイトへ掲載登録する等、ニーズのある層へ情報が届くよう工夫している。 ②職員は構成団体の各法人の人権研修や当課実施の社会教育担当者向けの研修にも参加し、人権意識を高めている。また、障がい者に対する配慮をはじめ、各利用者が支障なく利用できるようそれぞれに必要なサポート体制を整えている。	A	
	(3) 利用者の増加を図るための具体的手法・効果	①年間の広報宣伝活動は適切に実施されているか ②利用者拡大の取り組みを積極的にやっているか 27年度年間利用者目標(日帰り42,900人 宿泊57,100人 計100,000人)	①大阪府と連携し各種広報活動を展開している。府内公立小中学校校長会において施設紹介を実施。主催・自主事業のチラシを図書館、公民館など府内各施設へ配布した。マスコミへのニュースリリースや、貝塚市の広報誌への掲載依頼を行い、ホームページやfacebookにも最新の情報を発信している。メールマガジンは季節ごとに送付しているが、今後は回数を増やしていく。教員やリーダー向けの事業は学校や青少年施設へチラシを送付するなど、事業ごとに広報先を選定し、効率よく広報できるよう工夫している。パンフレットを改訂、プログラムや施設の写真を多用し、一般やファミリーにも自然の家の利用に繋がるように工夫をした。昨年から実施している大人向け新事業「コスプレの森」への参加が大きく増加した。 ②利用者拡大の取り組みとして、次年度予約開始時期の案内を送付した。また、過去に利用があり、未予約団体へもDMを送付した。送付後は電話にて営業を実施している。11月末までの利用者数は宿泊47,576人、日帰り39,387人で、計86,963人となり、前年比101.4%、今年度目標の10万人に向けてまい進している。	A	①既存の広報手法の強化に留まらず、よりターゲットを絞った広報先への広報等、コストパフォーマンスを考慮しつつ、広報効果の拡大を目指している。facebookページの活用、パンフレットの改訂等により、ファミリー層への広報強化も行っている。 ②第2期の目標である年間10万人をほぼ達成できる見込みであり、電話営業等の地道な営業活動が功を奏していると考えられる。引き続き目標に向けて努力していただきたい。	A	
	(4) サービスの向上を図るための具体的手法・効果	①サービスの向上のための取り組みが実施されているか ②全体的に施設の設備や機能を活用した管理運営をおこなっているか	①利用者アンケートとプログラムに関するアンケートを配布し回収している。利用者ニーズの把握に努めるとともに、利用者からの要望があれば、施設として可能な限り対応をしている。食事は、試食会を経て新メニューの開発などもおこなった。利用者のニーズにより、ハイキングも実施している。 ②事業やプログラムのほとんどは施設の自然環境や設備を生かした内容になっている。特に自然の素材を生かした物作りは、子どもだけでなく大人にも大好評である。活動記録はリアルタイムでfacebook上に紹介している。	A	①プログラムに関するアンケートから、指導者の野外活動に対するニーズを知り、講習会の企画に至った点は評価できる。実施時期、広報等工夫し、開催につなげていただきたい。アンケートの回収率を上げるための工夫も効果があったので、今後も利用者の声を運営に活かしていただきたい。 ②四季に応じたイベントの企画、豊かな自然環境を活かした事業を実施している。	A	
	①自主事業は設置目的に合致した企画になっているか ②事業計画書通りに実施されているか	①自然の中での体験活動を通じて、主体性や社会性を育む機会を推進するもの、創造性を育むもの、自己への挑戦の場を提供するもの、食育を推進し、基本的な生活習慣を身につけるものなど、年間多くの自主事業を実施している。心豊かな子どもの育成を図るという設置目的に合致したプログラムを実施している。 ②11月末まで実施予定の22事業のうち、19事業が予定通りに実施、「グローイングアップワイルド指導者養成講習」は延期、「中高生対象キャンプ」と、教員・リーダー向け「指導者講習」は参加者が集まらずに中止となった。次年度は広報を強化し、実施につなげたい。	A	施設の特徴、周辺環境を活かした青少年の健全な育成を図るための幅広いプログラムを年間約30本企画し、実施している。	A		
(5) 施設の維持管理の内容、適格性及び実現の程度	①日常的な管理や提案による施設整備などが事業計画書通り実施されているか ②施設管理・安全管理は適切か ③維持管理は効果的におこなわれているか	①提案の施設整備は事業計画書通りに実施しており、それ以外にも利用者から指摘箇所があれば確認対応している。具体的には、森林整備、登山道やハイキングコースの整備、野外炊飯場とアスレチックの修理と整備を定期的実施。そのほかツリーイングポイントの整備、機材も充実させた。野外炊飯場のバーベキューグリルやフライングディスクを購入した。 ②施設管理・安全管理は、記録を徹底し、漏れの無いようにしている。年2回の消防設備点検の際は所長もしくは副所長(防火管理者)が必ず立ち会うようにしている。職員による施設内の点検は日々実施して些細な修繕は都度対応しているが、毎月施設内の自主点検の記録もとったり、修繕箇所の優先順位付けをして実施している。 ③施設管理やコンプライアンス意識の向上のために、「報告」「連絡」「相談」を徹底し、コミュニケーションを密にすることにより問題発生を未然に防止するよう取り組んでいる。毎月の会議において問題点や現状を報告し、全員が共有している。年2回の消防訓練の際には、消火器、初期消火訓練、防火講話などを実施している。 本部との連絡は密に行っている。毎月初めに自然の家の報告事項や進捗状況、問題点などを話し合う定例会議の場を設けている。	S	広大な敷地、多くの設備を抱える施設の維持管理を自主点検、自主補修をはじめ、専門業者とも連携をとりながら、効果的に実施している。	A		

※評価の基準
S(優良) A(良好) B(ほぼ良好) C(要改善)

評価項目	評価基準(内容)	指定管理者の自己評価	評価	施設所管課の評価	評価	評価委員会の指摘・提言			
			S~C		S~C				
(6)施設の管理運営に係る経費等の内容	①府から受け取った管理受託費の執行状況 ②修繕費の執行状況 ③事業計画による施設整備費の執行状況	①管理委託費は適正に執行している。 ②修繕費は年間予算300万円に対し、11月末までで26%を執行済。上半期は緊急性のある修繕を優先した。残りは閑散期にしかできない修繕を中心に、集中して執行予定である。 ③事業計画に基づき「体育館ネット、ボール」は購入済、「屋内電球LED化」「サーバー機交換」は現在見積り中。順次実施予定。	S	四半期報告書等から適正に委託費を執行していることを確認している。	S				
			(7)府施策との整合		①「こどもファーストデーボン」「おおさか検定」「おおさか山の日」キャンペーンへの協力、エコキャップ推進協会へのワクチン補助活動を継続実施している。ポーズアウトの世界ジャンボリーの宿泊場所として提供した。 ②知的障がい者を1名、清掃業務に継続雇用している。大阪府商工労働部と連携し、高齢日雇労働者就労自立支援事業の就労場所として自然の家を提供している。 ③節電キャンペーンのポスター掲示、節電巡回の実施、デマンド監視装置による電力需要の抑制、グリーンカーテンの設置などにより、CO2削減に努めた。ごみの量を削減するために、食物残渣は家畜の飼料として活用したり、利用者へゴミ削減の協力を呼びかけている。		S	①府が協力要請した事業の全てに協力している。加えて、所在地の貝塚市の活性化への協力として、公式YouTubeチャンネルのコンテンツにも出演する等、多方面から公益事業に協力している。 ②公募時の提案どおり、知的障がい者を継続雇用し、働きやすい環境づくりにも努めている。 ③館内での節電、利用者への啓発をはじめ、全体で環境保護に取り組んでいる。	
			(8)府民、NPOとの協働				①ボランティア・NPO等との共同事業の実施状況 ・大学生を主体とした専属リーダーは、おもに自主事業におけるリーダーとして活動してもらっている。年2回、ボランティアリーダー向けの研修を行い、常にスキルアップと連携を深めている。 ・「ツリーイングクワイマー資格認定講習」や「グローイングアップワイルド指導者養成講座」などの自主事業を実施したり、日本森林ボランティア協会とは、指導講習会の実習場所として施設を提供している。また、大阪府教員養成事業を連携協力したり、泉大津秋季キャンプの協力などを行った。 ②施設運営への府民参加機会が確保されているか ・シニアを中心としたボランティアグループには、自然クラフト作り、観察などを行う際の指導や、炊飯の指導やサポート、キャンプファイヤーの指導などに活躍してもらっている。 ・近隣施設と共同で実施する「奥貝塚ゆつたりウォーク」に向け、年間を通じてのワークショップに参加し相互連携する機会を得ている。また、近隣施設の記念行事には、自然の家のプログラム体験を行うなど協力した。 ・大阪体育大学より5名のインターンシップ生を受け入れ、学生の就労体験の場として活用してもらった。		A
(1)利用者満足度調査等	①利用者の満足度調査 ②調査結果のフィードバック	①利用者アンケートとプログラムに関するアンケートを実施している。前年同様、「施設・食堂・職員の対応」すべての項目において98%が「満足」または「ふつう」という結果であった。アンケートの渡し方に工夫をすることで回収率も徐々にアップしている。受け取り時、特にマイナス意見に関しては口頭でも確認するように心がけている。 ②調査結果はすぐに対応できるものは改善している。たとえば「子ども用の箸が欲しい」「掃除用具が少ない」などの意見にはすぐに対応している。集計結果は職員全員に周知するとともに、全体会議の場で議題にしている。アンケートの意見とその対応を定期的にホームページにアップしている。	A	総じて高い満足度であるが、それに驕ることなくアンケート結果を職員で共有し、要望については迅速に対応している。また、アンケート以外にも、職員が口頭で受けた要望、意見についても共有し、改善に役立っている。					
(2)その他創意工夫			その他指定管理者によるサービス向上につながる取組み、創意工夫		・受け入れに関するサービスとしては、過去利用団体に予約開始をお知らせするサービスを実施したり、予約済の団体に予約確認作業を行う事で、予約のし忘れや変更ミスなどを防ぐようにしている。また、営業時間に連絡ができない利用者や事前打ち合わせに來れない利用者には、電話、FAX、メールなどで対応を行っている。休所予定日に団体の利用希望があった場合には休所日を変更もしくは開所するなど、柔軟な対応を行っている。 ・施設設備に関するサービスとしては、清掃用具を各部屋ごとに設置し、布団や床の清掃がしやすいように工夫をした。 ・食堂では、食育の観点から「栄養バランス」「食の安全」に留意して提供をしている。「メニューの充実」を図るために、試食会を実施したり、要望によりバイキングを行うなど、利用者ニーズにもできるだけ対応している。また、アレルギー食や宗教・信条などの理由による食事制限にも可能な限り対応している。	A	・予約受付で完了ではなく、その後も利用時の希望、活動プログラムの確認等、予約者と利用日まできめ細やかに連絡調整を行っている。 ・清掃や食事についても教育である観点忘れず、サービスを行っている。清掃においては用具の充実、布団のたたみ方のデモンストレーションなどを行い、利用者が進んで清掃できるよう働きかけている。食事についても、子どもへの食育、メニューの充実に加え、大人の利用者に対するメニューの希望にも対応し、施設の満足度を高めている。		
(1)収支計画の内容、適格性及び実現の程度	今年度の収支計画書と事業計画・管理体制計画との整合性は図られているか	・4~11月の収支について、収入は施設収入/予算比99%、昨年対比102%、食堂収入/予算比94%、昨年対比99%。支出は施設/予算比89%、昨年対比95%、食堂/予算比91%、昨年対比98%となった。支出について、修繕や施設整備は12月~3月に集中して執行を予定しており、ほぼ事業計画通りに推移するみこみ。 ・事業、管理体制は計画に基づき適切に運営している。	S	四半期報告書等から計画との整合性を確認している。	S				
			(2)安定的な運営が可能となる人的能力		①職員体制は適切か ②職員採用、確保の方策は適切か(継続雇用等) ③職員の指導育成、研修体制は十分か		①共同2団体により適切な職員配置をおこなっており、職員は、総括2名、事業支援課4名、事業企画課5名、食堂部門5名、パート・アルバイト9名と、計画通りに配置している。それぞれの資格、得意分野を活かすように人員を配置している。 ②繁忙期の厨房パート3名、事務所パート2名を採用し、10月末で終了した。 ③構成団体個々の部内研修に参加し、人權研修や接客講習を受講予定。「近畿地区青少年教育施設協議会」への参加、「大阪府青年の家等連絡協議会」の事務局として総会を実施予定。キャンプ協会主催「リスクマネージメントセミナー」や「ツリーイングインストラクターミーティング」に参加した。年度内に個々のスキルや専門性に合った研修を受講予定。	A	①②労働関係法規を遵守した人員配置であり、繁忙期の雇用等、弾力的な配置を行っており、職員体制は適切である。 ③青少年教育に関わる者全般に対する研修に加えて、各担当業務に応じた研修へ参加し研鑽を積んでいることは評価できる。今後も勤務年数に応じた研修など、引き続き人材育成に努められたい。
			(3)安定的な運営が可能となる財政的基盤					①運営基盤として事業者の経営規模、事業規模、組織規模は十分か ②運営基盤として事業者の財務状況は適正か	

※評価の基準
S(優良) A(良好) B(ほぼ良好) C(要改善)